

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	同じ作業を継続すること、本人の意向に沿った作業の開発を行うことによって事業所への帰属意識が高まり、利用者のやりがいを生んでいます
	内容	事業所の理念である「一人ひとりの自己実現の支援」のもとに利用者の個性を把握し、本人のできること、得意なこと、やりたいことを実現しています。折り鶴を作成したり、パソコン入力など新しい作業の開発や作業に集中できない利用者には声掛けや見守りを根気強く行い、同じことができるよう支援をすることでできなかつたこともできるようになり、利用者の隠れた才能を引き出しています。こういった取り組みにより、利用者自身で心のコントロールが図れるようになり、さらには事業所に対する帰属意識が育まれ、意欲の高まりを引き出しています。
2	タイトル	利用者の将来の生活も見据え、住み慣れた地域で暮らさせることを念頭に支援体制を整備しています
	内容	利用者の現段階での平均年齢は30.3歳と比較的若いですが、親や兄弟などが介護が必要になり入所施設への入所のために事業所を退所せざるを得ない事例も出ているようです。そのため、今後は、利用者本人の高齢化に伴う機能の低下や疾病の重篤化といったことを念頭に医療との連携を深め、さらには介護保険サービスとの関連性も含め住み慣れた地域での生活を継続できるよう支援体制の整備を進めています。ターミナルケアも視野に入れ、地域のセーフティネットとしての役割を果たすべく、取り組みが始まろうとしています。
3	タイトル	事業所内で他害行為をあり得るリスクとして認識、説明、対応し、その解決に向けて「利用者を加害者にしない」基本方針で臨んでいます
	内容	当事業所では、今は在籍している利用者に大きな不利益が生じない限りは、基本的にどのような方でも受け入れていくことになっています。事業所でも他害行為が利用者におよばないよう十分な注意はしますが、他害行為というリスクはあり得る旨を事前に説明しています。職員にも他害行為を生じる可能性がある旨を説明をして、受け入れを行っていて、そのような利用者が事業所内で他害行為を起こさないように、利用者を加害者にさせないためにどうしたら良いかを考察し、様々な方法で利用者に働きかけながら、支援を行なうように努めています。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	支援計画の見直しの際に、単なる簡単な見直しでも、期間内での支援の総括として、利用者への聞き取りや同意を得られればと期待されます
	内容	利用者の支援に対してはさまざまな工夫を凝らし、利用者の立場に立って支援を行うように努めておられることは高く評価されます。利用者の個別支援計画を半期ごとに見直す際に、支援員が策定した支援計画の原案をチェックして計画を確定した際に、見直しによって大きく変わった際は説明を行い、希望等を聴取しています。一方で、大きな変更が見られない場合は利用者への確認を受けていないとのことでした。半期という期間の中での総括である見直しの際には、可能な限り利用者の声などを聞き取ることが望ましいと思われます。
2	タイトル	職員の多忙さを軽減し効率化を図るためにも業務の整理と基準の明確化が望れます
	内容	「AM公園清掃」など日々のおおまかな予定を記載した「夢風船 予定表」や、「カラオケ」「ヘアカット」などの内容が記載されている「夢風船 夕方支援予定表」はあります。日々の活動内容について「〇時～〇時までの片付けは職員のAが10分程度で行う」といった計画ではなく、「その場での支援」に終始しているように感じました。そのため、食後のテーブル拭きについても利用者が行い、その後A職員が行い、さらにB職員も行うといった光景が見受けられました。職員の多忙さを軽減するためにも、業務の整理と基準の明確化が望まれます。
3	タイトル	コミュニケーションが困難な利用者でもリアルな状況を把握し計画に落とし込める、ケース記録のとりかたへの工夫が期待されます
	内容	利用者の日々の記録は、ケース記録に落とし込まれています。利用者一人ひとりの様子を記録するためかなりの作業量であるかと思われます。そのため、その内容は活動時間内での様子の記録のみなど、書き手によって異なるようです。ケース記録は計画更新の際には、コミュニケーションが困難な利用者の日々の様子を把握する貴重な情報源ともなります。支援計画に沿って支援が提供されているかをチェックできる機能はありますが、さらに一步進んで、記録からどういった情報を引き出せるかを視点として記録のとりかたへの工夫が期待されます。